

幼児期から試みる早期防災教育の研究 — 家庭における地震対策用絵本の提案 —

住居デザインコース 住居・インテリア専攻 土屋 絵里 (指導・久木)

1、はじめに

本研究では幼児期から自助・共助・公助といった、早期防災教育の重要性を考慮し、幼児のための絵本教材の提案を目的とした。

また、子供の環境を考えると、幼稚園では防災訓練等が実施されているが、家庭での防災教育が手薄になっていることが現状であると考えられる。そこで、家庭での防災教育の必要性・実態を検証し、子供と親と一緒に防災対策を心がけるきっかけとなる絵本を作成する。

2、研究の流れ

1、アンケート調査

家庭における防災教育の必要性・実態を把握し、絵本に反映させる

調査対象 3～5歳の子供をもつ親
東京都八王子市 共助第二保育園
新潟県新津市 にこにこ保育園

30部
21部 計51部回答

2、絵本の試行

アンケート調査結果を元に、絵本の形式・内容・構成・対象年齢を検討する

3、ヒアリング調査

絵本教材の評価及び改善点を知り、改善を行う

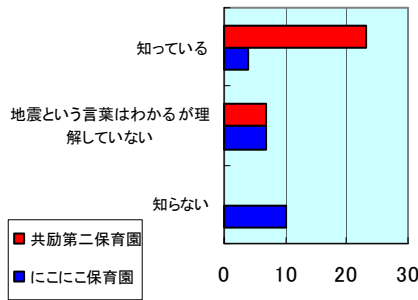
調査対象 3～5歳の子供をもつ親(東京都)

49部回答

4、改善

3、家庭における早期防災教育の必要性・実態

まず、3～5歳の子供の地震認知度を分析した。(図1)



この結果から、地震の多い地域と少ない地域では、子供の認知度に大きく差が出るのが分かった。

図1 子供の地震認知度

次に、子供が知っておくべき地震時の対処法と、子供が知っておくべき地震時の備えについて分析した。(表2)

表2 子供が知っておくべき地震時の防災対策

子供が知っておくべき地震時の対処法	子供が知っておくべき地震時の備え
机の下に潜る	家族で避難場所の確認や連絡方法を話し合う
むやみに外に逃げ出さない	火元に燃えやすいものを置かない
防災頭巾をかぶる	家具の固定
玄関のドアを開け、避難口の確保	棚やタンスの上に重いものを置かない
すばやく火の始末	消火器を備える
避難時に持ち出すものは最小限にする	非常持ち出し品の用意

表2より、多くの親は子供に出来る最小限のことを「身の安全の確保」と判断していると分析される。

次に3歳児からの地震対策導入の必要性について分析した。(図3)

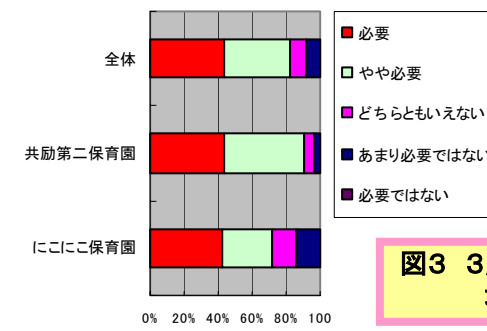


図3 3歳児からの地震対策導入の必要性

次に、防災絵本の必要性について分析した。(図4)

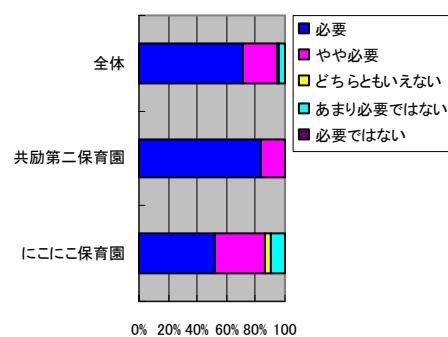


図4 防災絵本の必要性

防災絵本は多くの家庭で必要とされていることが分かる。

次に防災絵本の望ましい読み方について分析した。(図5)

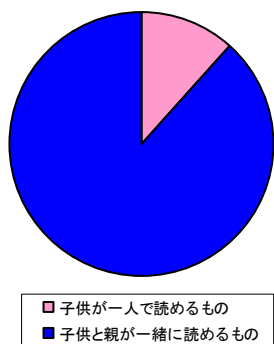


図5 絵本の望ましい読み方

子供と親が絵本を一緒に読むことによって、子供だけでなく親も地震に関する防災意識を高め、知識を深められるのではないかと分析した。

絵本を使っての防災教育は子供にとっても、読み聞かせる親にとっても親しみやすく、有用性があると分析される。

アンケート調査から分かった家庭における早期防災教育の必要性・大切さを踏まえ絵本を試行した

4、絵本の試行

まず、絵本の内容を分析した。(図6)

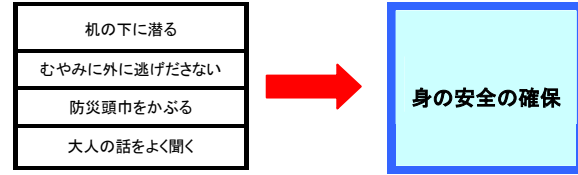


図6 絵本教材の目標と内容

次に、絵本教材の構成と分析を表7に示す。

表7 絵本教材の構成及び分析

	形式	方法	効果	キャラクター
構成	ストーリー式・クイズ式両方	子供の「なぜ」に答える	繰り返しの効果	動物
	物語式のなかに「なぜ」のような雰囲気が含まれている形式	主人公が友達たちに地震対処法を聞いて、教えてもらう	知識を分かりやすくし、子供の理解度を高める効果	子供がよく知っている動物を自分なりにアレンジしたもの
分析	読み聞かせの「親子で学ぶことができる」という利点と、クイズ式の「子供の好奇心を刺激する」という利点の両方を生かすことができる	子供の「なぜ」という疑問に答え、自分と主人公と同化させて地震対処法を学んでいく絵本は3歳児に適している	頭で覚えるだけでなく、絵本のリズムを体で覚え、体感として絵本に打ちとけられる	アンケート調査により、男子女子共に評価が高かったもの絵本の内容・構成共に客観性を重視したためキャラクターは主観性を重視

子供には年齢に適した教育が必要である。子供の脳の成長は、0～3歳が成長期で多くのことを吸収する時期なので、言葉をかけることが発達によいとされている。特に絵本の読み聞かせは子供の耳に心地よく入り、脳の発達を促すので大変適しているといわれている。よって3歳前後の教育は子供に大きな影響を与えると考え、絵本の対象年齢を3歳からした。

5、絵本の評価及び改善

3歳児対応の絵本の評価と子供の絵本に対する理解度を分析した。(図8、図9)

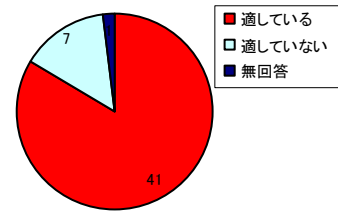


図8 3歳児対応の絵本の評価

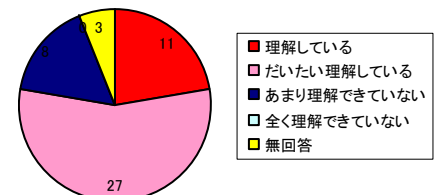


図9 子供の理解度

統計的に、絵本の構成・形式・内容・キャラクターについて「適している」という意見が多く見られた

表8は試行した絵本の改善点を示した

改善点
・文章に区切りをつける
・ドア、ヘルメットなどをカナにする
・まる、ぱつ、まっしぐらという表現を改める
・不足部分を整理する
・題名を変更する

表8 試行した絵本の改善

小さいときからの防災教育を学ぶ仕掛けの一つとして行った絵本の提案には有効性があることがわかった。



タイトル変更



文章変更



ぱつをぱつ



6、結論

幼児期の家庭における防災教育は必要と考えられてはいるが、実施していないのが現状である。防災絵本は家庭において必要とされており、有効性があることがわかった。また、親子で防災を考えるきっかけになり、子供への教育効果も高いことが認識できた。